

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700754		
法人名	西野苑有限会社		
事業所名	グループホーム木もれび		
所在地	三重県 松阪市 西野町 457番地3		
自己評価作成日	平成 30年 8 月 1 日	評価結果市町提出日	平成30年9月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JivovsvoCd=2470700754-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 8 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は松阪郊外の山里にあり四季の変化を肌で感じながら生活出来る環境にあります。周辺には森林公園、ベルファーム等自然を楽しむ施設もあり利用者の方は、四季の変化を楽しみながら生活されています。ホームの裏には自家菜園があり昔ながらの作物作りなどを自主的に行ってもらっています。職員と利用者は「介護する・される」の関係ではなく、お互いに出来ないことを補いながら一緒に「ぬくもりのある生活」をしていくといった考えのもとで取り組んでいます。市内の他グループホームや地域包括支援センターとの協働で認知症ケアの啓発活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松阪郊外の緑豊かな田園地帯に位置し、小鳥や虫などの鳴き声や自然の移ろいに包まれながら住まうことが出来、木材(国産の杉や檜)をふんだんに使用した建物は懐かしい雰囲気を持っています。開設時からの理念を職員は大切に日々実践している。永年、地域福祉に熱意を持って取り組まれている運営者のもと管理者は、職員の質とレベルの均一化を目指し、利用者一人ひとりに寄り添った温かい支援が行われている。名古屋から会いに来られた女性から『義母が此処に同居した時から顔色がどんどん良くなり元気になってきた。今日も二人で外食してきました』と感謝の声があった。明るいうらびんぐでの職員と利用者との会話は楽しく信頼関係を感じられる。日常的に近隣への散歩やボランティアの方々の訪問など楽しみ事も多い。認知症になっても地域と繋がりが大切にされていると実感できるように、パーソン・センタード・ケア(一人の人として尊重し、その人の視点や立場になって理解しケアを行う)を実践している。優しい風が流れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームのわかりやすい所に理念を掲示して日々意識して入居者と関わり、理念の文言にある「ぬくもり」を基本にその理念を実践できるようにしている。	設立時に職員全員で考えた理念『豊かな自然と木のぬくもり、……思いやりのあるサービスを追求してまいります』を玄関に掲げ大切にして、職員会議で確認したり、日々のケアの場面でも利用者一人ひとりが、その人らしい人生になるように管理者と職員は共有し、日々確認し、話し合い、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の会合に参加して施設の状況を話し交流させて頂いている。草刈りや相互のイベントで交流を図っている。近所の人から農作物の差し入れをもらったり、自農園の指導援助をしてもらったりしている。地域の方に回覧板を廻し、おかげ横丁への参加を募っている。	運営者は地域福祉に熱意を持って取り組んでおり、常に地域との関係づくりを大切にしている。併設のデイサービスを通じて、運営者・職員・利用者・家族ともに、馴染みの方も多く、老人会の会合や地域の草刈りに職員が参加している。地域の方々から農作物を頂く事も多い。デイサービスでの夏祭りで交流も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会合に参加して認知症の人の理解や支援方法の講演をしたり、相談にのったりしている。又今後の地域包括ケアに向けて、グループホームの役割に関して話し合っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議を、自治会長(2町)老人会会長、民生委員、市職員包括支援センター職員で各種状況報告と意見交換をしてサービス向上につながるようにしている。又会議の議題により関係者に呼びかけをし会議に参加して頂いている。	偶数月の9時30分から西野町・岡山町の自治会長と民生委員と西野町老人会長が、行政からは健康福祉部介護保険課・第五地域包括センターの方々が登場して開催している。現在の利用者の状況・対策や行事の報告だけではなく参加者からの意見も多くありそこで出された意見などはサービス向上に活かすように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者の来苑は運営推進会議の開催時のみであるが、必要時に市へ情報提供し指導して頂けるようにしてサービスの質向上を努めている。又市高齢者サービス連絡協議会への参加により市との協力関係を築くように努めている。	松阪市の担当者が事務局になっている松阪市グループホーム部会で、ケアの質向上のための研修会や同事業所見学会などに参加して市と連携を図っている。また松阪市第五地域包括支援センターと地域の病院や近隣のグループホームと一緒に認知症カフェ『ほ～ほけきよ』を9月13日10時～11時30分に開催予定である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアをしている。定期的に職員研修を実施している。	法人の研修もあり、全職員が身体拘束・言葉の拘束をしないケアを正しく理解している。帰宅願望の利用者にもモニターで常に確認し、寄り添い・見守ることで拘束しないケアに取り組んでいる。また常に否定しないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について全員が理解できるように勉強会を行い、職員間でも折に触れ虐待行為のないように話し合い連携を密にし、注意を払っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活支援事業や成年後見制度について理解できるように勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、介助又は改定の際は利用者や家族等の不満、疑問点、希望を尋ね、リスクも含めた十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族(来苑時)に声かけをして不満、苦情を聞く機会を設けている。電話にて常に連絡を取っている。又玄関に意見箱を設けて忌憚のない意見が、書けるようにしている。又手紙にて状態を報告している。	家族の訪問時などに、担当職員による近況報告をしたり、『木もれび通信』を送付することで、家族との良好なコミュニケーションツールにもなっている。家族がいつでも訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。意見箱にはなかなか意見が入らないので他の方法を検討中である。	玄関に意見箱が置いてある。利用者・家族・来訪者の方々から忌憚のない言葉を入れて頂けるように、例えば『メッセージボックス』の様な気楽に投函して頂ける雰囲気ボックス等の設置が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	木もれび運営会議を毎月行っている。この会議には運営者、管理者、各部署の責任者が参加し意見の交換をしている。運営会議の前には各ユニット毎に会議を開き、運営会議で職員の意見等を反映出来るようにしている。	管理者は朝礼時に、職員から意見を聴くように努めている。月1回開催される運営会議の前に各ユニット毎に会議を開き、全職員の意見や提案を聴く機会を設け、それらの意見を反映出来る様に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(施設長)は頻繁に現場に顔を出し入居者や職員と言葉を交わしたり、職員個々に話し合う機会を作り日常的な悩みやストレス及び勤務状況を把握し各自がやりがいの持てる職場関係の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修会を年間計画を立て実行したり、各職員の力量に合わせ県の協会や市の協会の勉強会に職員が参加し働きながらトレーニング出来るようにしている。社外の研修の際はレポートを提出し全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の協会に毎月参加して同業者との交流する機会をもうけネットワーク作りや勉強会を通じてサービス向上させていく取り組みをしている。また実習生の受け入れもして地域の同業者との交流を出来るようにしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の生活歴、生活状況、本人の思いや不安要素等を把握し本人の立場になり求めていることを理解し悩みや不安を解消できるように工夫している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、状況を確認し、不安の解消困難事項の改善に向けた支援の提案、相談を繰り返しながら信頼関係を深めていくようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等の不安や困っていること、必要としている支援を見極め空床があれば緊急入所(ショート利用を含む)など柔軟に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考え方を、職員は持ち生活の知恵や歩まれた歴史を聞く機会をもち、学んだりお互いに支えあって生活する関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族との対話を持ち喜怒哀楽を共有し、協力し合って本人を支えていく関係を築くようにしている。電話にて頻繁に連絡を取り合っている。家族はいつでも来苑して頂ける様しており、本人、家族の希望があれば、自由に家族水入らずで外出してもらっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の訪問時には「またきてくださいね」と声をかける等関係が途切れないように働きかけ来苑しやすいようにしている。日頃の本人の思いを聞き電話等で家族に伝え協力を得て馴染みの場所へ行くことが出来るようにしている。	家族と外出し、買い物や食事をしてこられた方が『お昼はお蕎麦を食べてきた!』と、嬉しそうに話されていた。本人が大切にしてきた楽しみ事など、馴染みの人や場所などの関係継続が途切れないように支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごせたり、仲の良い利用者同士の関係が、うまくいくように職員が調整役となって支援している。日々の心理状態や気分、感情を注意深く見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となり契約終了となっても、今後本人が最善のケアを受けられ家族の負担が軽減できるように相談に乗り支援に努めており、又御本人に会いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で話を伺って、把握に努めている。担当制を導入して本人の思いや意向を把握しやすい環境を作っている。又本人からの聴取が困難な場合は、家族や関係者から情報を得て本人本位に検討出来るようにしている。	職員は担当制で利用者に寄り添い、思いや意向の把握に努めている。会話が困難な利用者には表情や家族からも教えてもらうようにしている。把握できたことは日誌に記載して皆で共有出来る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に訪問し、本人・家族・関係者等から情報を聞きとるように努めている。又入居後も本人・家族から生活歴・趣味嗜好・馴染みの暮らし方・関係等を日常会話を通じ聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント用紙を活用し利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、日々の行動・動作から身体状態、発言・表情から心理状態を感じ取り有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見・意向を聞き又入居後は職員とも話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。また長期・短期目標を設定しモニタリングを行い介護認定変更や状態の変化時以外は3カ月毎に見直しをしている。	計画作成担当者は短期目標を毎月、課題が実行できたか確認し、3ヶ月毎にモニタリング・評価・サービス担当会議を行っている。必要に応じて家族や主治医の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテに健康状態、バイタル及び日々の生活、心理状態等を記録し職員が情報を共有できるようにしている。職員同士が気づきを話し合い業務日誌及び連絡帳に記載し申し送りを行い実践し介護計画の見直しに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じ空室があればショートテイに対応したり、本人が馴染みの場所となるように敷地内にあるデイサービスの利用に対応したりして柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学校、幼稚園とのふれあいや入居者の意向に合わせたボランティアへの協力を呼び掛けている。地域の警察、消防とも協力しながら支援している。文化面においても職員が付き添い鑑賞できしていただけるよう機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意を得た上で協力医の2週間に1回の往診を受けている。本人・家族の望む医療機関がある場合は受診の支援をしている。専門医甲等での検査・治療が必要な場合協力医に紹介状を書いてもらい早期発見・早期治療ができるように支援している。	家族や本人が希望する医療機関を受診出来る様に支援しているが、現在は利用者全員が、ホームの協力医が主治医になっている。2週間に1回訪問診療や24時間体制での支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の入居者の健康状態の把握に努め、その情報を看護職に報告し、変化があれば看護職に相談して適切な受診や看護を受けられるように支援している。看護師は24時間対応にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い職員が入院先の医療機関に出向き医師、看護師、家族を交え治療回復状況及び退院時期、退院後の介護における注意点等のカンファレンスを行い早期退院出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期(看取り)の方針があり入居時に事業所で出来ることを説明を行い、また早い段階から本人や医師との話し合いを行い全員で方針を共有してチームとして支援に取り組んでいる。状態の変化、急変した場合すぐに本人・家族の意思にそった支援が出来るように取り組んでいる。	重度化・終末期(看取り)における対応指針を作成し、入居時に本人・家族に事業所でできることを説明しながら方針を共有し、主治医や看護師・職員などのチームで支援に取り組んでいる。昨年も看取りを行い家族から感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日勤時、夜間時の緊急対応マニュアルを整備し周知徹底を図っている。消防署の協力を得て救急救命講習を実施し実践力を身につけるようにしている。日頃から職員間で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員の指導による総合消防訓練を行っている。日頃から職員同志が災害時の行動手順を話し合っている。地域の消防団に災害時の協力を呼び掛けている。	年2回、松阪消防署の協力を得て隣接デイサービスと合同訓練を行っている。居室と廊下にはスプリンクラーを設置し、2階の利用者を非常階段から階下へ降ろすための布袋も用意している。また地域との防災協定を結んでいる。一週間分の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような声かけの仕方や対応を心掛けた支援が出来るようにしている。	利用者一人ひとりの気持ちを大切に、常に無理強いないケアを心がけている。語調や言葉かけが利用者の誇りを傷つけることが無いように、プライバシーを確保して笑顔で対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをして利用者が何をしたいのか本人が決める場面を作っている。(入居者との話し合いの機会を事あるごとにもっている)共同で何かをする時も本人の意思で参加してもらうようにして、押しつけにならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等1日の生活の流れはもっているが、時間を区切った生活はしていない。散歩やレクリエーション等は一人ひとりの状態や意思に配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は家族の協力で本人の望む店へしてもらっている。また理髪店の協力で出張利用もしてもらっている。本人の望むその人らしいお洒落ができるよう支援している。又外出の際、服等自ら選んで、購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけは入居者と職員が協力合っている。日常の食事は委託業者に作ってもらうが、リクエスト昼食の日を設け好みの食事を一緒に作る機会を設けている。木もれび農園で採れた野菜で料理したり、季節感を味わっている。又外出に行き好みの物を食べる機会も設けている。	昼食と夕食は委託業者が隣接の厨房で調理したものが運ばれてくるが、木もれび農園で栽培した季節の野菜や裏山で採れた破竹や土筆等の料理で季節を楽しむ事が出来るように支援している。訪問日の昼食は麻婆豆腐などであったが、皆が美味しく食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに摂取量を記録し1日を通じて必要な栄養摂取が出来ているか観察し不足な時はその人が好む物を捕食してもら等して配慮している。いつでも自由にお茶が飲めるように工夫して水分補給できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけをして利用者の能力に応じて見守りや、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。また義歯は就寝時洗浄消毒を行っている。朝の体操時口腔体操を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄記録を行い利用者の能力や排泄パターン、習慣を活かし気持ちよく排泄できるように支援している。失禁のある方もオムツの使用はせずリハビリパンツを使いでの出来る限り自立へ向けた支援をしている。	布パンツで自立した利用者もいるが、利用者の能力や排泄パターン・習慣を活かして気持ちよく排泄出来る様に支援している。各階にトイレは3ヶ所あり、ゆったりとして明るく清潔で、利用者はそれぞれ好きな場所のトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の及ぼす影響を理解しており、排泄チェック表に毎日の排泄の記録をして把握できるようにしている。散歩・運動等身体を動かす機会を設け自然排泄が出来るようにしている。また繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ水分補給をするなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は職員の勤務時間により午後2時より4時の間で行っている。一人ひとりが、ゆったり自分のペースで入ってもらえるよう半数の人を1日交替で入ってもらっている。必要に応じてシャワー浴はいつでも出来るようにしている。	窓のある明るい浴室から、緑の木々や優しい風を感じる事が出来る。昼食後のゆったりした時間帯に、隔日の入浴になっている。希望に応じてシャワー浴は何時でも出来る様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は決めず一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。昼間も自由に自室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬剤情報や受診情報を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の処方や量が変わった時、本人の状態が変わった時は個人カルテ、日報、連絡ノートに記述し職員全員が解るようにし、看護師、主治医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた出来そうな仕事をお願いしている。入居者の知恵や経験をお聞きし役立てる場面を作るようにしている。草刈りや畑仕事、日々の家事、手芸や歌を歌うなど多岐に渡り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩は希望に沿って行っている。季節を感じてもらえる周辺の公園やショッピングセンターにも出かけるようにしている。年に1回伊勢おかげ横丁への日帰り旅行をしている。家族の協力での外出も時々行っている。	日常的にホーム周辺の農道や公園への散歩を行っており、ほかに年1回全員でおかげ横丁への旅行は家族も楽しみごとになっている。また、利用者一人ひとりの希望にそって、家族や知人との外出や外食を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを希望している入居者は少額をお財布に入れて所持してもらいショッピングセンターへの買い物の際自分で支払いをしてもらう。金銭管理が困難な入居者は職員が支払いを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族やその他先方へ迷惑にならない範囲で電話をできる雰囲気作りをしている。電話はスタッフルームにあり電話内容が他の入居者に聞こえないようにしている。日常的に入居者の希望に応じて手紙が出せるようにしている。又、携帯電話を持ち、家族、友人等連絡を取っている人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下は広全体にく明るい。季節の花を常に飾っている。居間にはソファテーブルを置き入居者と一緒に制作した季節の作品があり自分たちで作り上げたインテリアの気分が味わえるようにしている。居間と食堂台所は一体になっているが食器を洗う音ご飯の炊ける香り等が生活感を感じてもらえ、居心地よく過ごせる空間になっている。	大きな窓のある明るい共有スペースは開放的で、季節の花が飾られて居心地良く過ごせる配慮が随所に見られる。また自然の風は心地よく、湿度や温度も適切で、利用者一人ひとりが思い思いの場所で過ごすことが出来る様に工夫している。開設時より飼われている猫のコモちゃんが利用者・職員・家族を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には畳コーナーがありテーブルセット以外にソファを配置して一人になりくつろいだり、気の合った利用者同士が語り合い思い思いに過ごせるような空間造りになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッドと物入れ洗面台が設置されている。自宅で使用していたテレビ・椅子・テーブルタンス等も自由に持ち込め本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。又、位牌を部屋に置き毎朝、水、ご飯を供えて日課にしている人もいる。	各居室は全て南に面しており、明るくゆったりしている。1階と2階に別れて、利用されている御夫妻の部屋にはそれぞれブルーとレッドの素敵な色調のカバーの掛けられたソファが置かれ、職員の心遣いが感じられる設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、廊下、居室、トイレ等に手摺を設置したり、車椅子対応のトイレの設置をしその時の状態により安全に対応できるようにしている。又シルバーカー・歩行器等を個人の状態に合わせて利用し、自立した生活が送れるようにしている。		